

令和5 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日

令和5年3月25日

法人名

園名

太陽の風

蒲生てんてんこども園

まとめ

全体平均

3.55

第2章第2節 乳児期の園児の保育	保育者が子どもが今何を伝えたいのかを感じ取りながらしっかりと関わることができていた。子どもにとっては安心して接することが出来ていたため子どもたちも笑顔で過ごせていた。0歳児・1歳児が同室で生活する中では、0歳児の遊びを制限してしまうなどの活動制限をしてしまった。同室での空間環境に弱さを感じる。しかし、良い面として1歳児をモデルとして模倣することでよりよい成長を促すことができていた。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	子ども達の戸外でのたくさんの遊びを経験することで良く食べ・良く寝る週間が身に付き体が強くなった。また、戸外に出る事が日常的になると室内外を自ら遊び遊ぶ姿も増えた。保育者の関わりの中で食事・排泄・着脱等の面では時間に追われてしまい子どもが主体的に関わっていない場面もあり一日の生活がゆるやかにすすむための意識をしていく必要がある。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	朝活動や昼活動を戸外と室内を自主選択できる環境を準備することで子ども達が主体的に遊び込む姿が増えた。また、異年齢での関わりが日常となり年長の遊びを年中の子ども達が真似をすることも増えた。保育教諭等は子どもの気持ちに寄り添いトラブルとともに解決できるよう支援していた。今後は、子どもの興味関心を考えた室内外の物的環境を仕掛ける必要がある。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	園児の環境への関わり方はさまざまである。常に積極的に行動できる園児、関心を示さなかった園児、友達や保育教諭がすることを眺めている園児。園児の気持ちに寄り添いながら自分でやってみようという気持ちが現れるのを待つことが大切だが、園児の興味関心に沿って環境の構成を変えたりするなどの工夫が今後の課題である。また、園児の性別等の女の子だから女の子だからといった気づいていない声掛けには注意したい。
第3章 健康及び安全	食育への取り組みは令和4年度から実施しているがクッキングが中心となり発達段階に合わせたクッキングとなるよう今後配慮する必要がある。また、クッキングだけではなく食事のマナーや七草や正月料理の由来等食に関する話し等にも配慮していく必要がある。災害への備えとしては毎月の避難訓練の実施に留まらず地域と連携した引き渡し訓練を行うなどしていく必要がある。
第4章 子育ての支援	各家庭の家庭環境を考慮し、保護者の思いを受け入れながら自らが選択、決定できるように心がけている。時に保育者の思いと保護者の思いがずれ違う場面もある。本来の子どもの自身が感じる困り感を中心に考えながら保護者と一緒に考え、自己決定できる支援を行っていききたい。また、ドキュメンテーションを毎日配信することで子どもの成長が写真・文面から可視化できるようになったことは保護者より一定の評価をいただいている。今後はコロナも落ち着くことを考えると保護者が参画できる支援を行う必要がある。
第5章 職員の資質向上	園内研修を通して現在保育現場に必要なテーマを選定して研修を実施。特に子どもの様子を中心としたグループワークを行いながら実施。また、外部講師を招いての配慮を必要とする子ども支援や保育者が子どもの興味関心から環境を仕掛ける研究保育等を実施。子ども主体の保育とはどうあるべきかを語り合う研修を行いたい。今後の課題としては外部研修をどのように保育現場に落とし込むかが課題である。
総合	子どもに寄り添い子どもの思いを組み取りながら関わる姿が多く見られた。また、幼児期の子ども達のトラブルも学びのひとつと捉え本人達の様子を見ながら保育者は仲立ちするような関わりができていた。遊びについても室内外で選択を子ども自身がしながら朝や昼の戸外活動が充実することで子どもがいつでも外で遊べる時間的保障があることを理解すると遊び後の室内への帰り渋りが減ってきた。今後は室内外の子どもの興味関心の合わせた環境設定や仕掛けが課題である。時間的な部分では、給食の量などを子ども自身に任せるなど余裕を持たせるようになってきているため、生活場面（食事・排泄・着脱等）での自己決定を促す時間的余裕を準備していきたい。防災関係では、不審者対策の防犯訓練の実施や地域と連携した災害に備えた引き渡し訓練に力を入れていく必要がある。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	3.53
「3歳未満児保育」	32	3.34
「3歳以上児保育」	53	3.66
「教育保育の配慮事項」	15	3.40
「健康・安全」	29	3.34
「子育ての支援」	16	3.88
「職員の資質向上」	9	4.00
計	169	3.55

データグラフ



令和5年2月2日

保護者様

蒲生てんてんこども園
園長 城ヶ崎 修二

令和4年度 蒲生てんてんこども園評価アンケート調査の結果について

寒冷の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
さて、先般実施しました標記の調査につきましては、ご多用にもかかわらずご協力を賜りましてありがとうございました。

つきましては、下記のとおり集計しましたのでお知らせいたします。アンケート調査の結果は、園運営や教育・保育の改善等に生かしてまいります。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

回収率/65(%)

質問事項 4:できている 3:どちらかといえばできている 2:どちらかといえばできていない 1:できていない	平均
1 お子様は、喜んで登園していますか。	3.6
2 お子様は、クラスの友達と仲良く生活できていると思いますか。	3.6
3 園(保育教諭)は、お子様のことをよく理解して接していますか。	3.6
4 園(保育教諭)は、お子様の様子や健康状態などをきちんと伝えていきますか。	3.6
5 園(保育教諭)は、子育ての不安や悩みの相談に気軽に応じていきますか。	3.6
6 園の理念や方針、子どもの様子が、園・クラス便り、コドモンなどで把握できましたか。	3.5
7 園の教育・保育内容や行事は、充実していると思いますか。	3.6
8 園の防犯防災など安全対策は、十分だと思いますか。	3.6
9 園の清掃・感染症予防など保健衛生面に配慮していると思いますか。	3.6
10 園は、あいさつなど基本的な生活習慣を身に付けさせる取組をしていますか。	3.6
11 園(保育教諭)は、欠席等の連絡がない場合、必ず確認を行っていますか。	3.6
全体	3.6

アンケートに学ぶこと

まず、何よりも感じましたことは、保護者のみなさまが大変好意的に、かつ、前向きに私たちの教育・保育活動をとらえていてくださるということです。

私たち自身は、一生懸命考え、工夫を凝らしながら誠実に取り組んでいるつもりではありますが、保護者の皆様の目から見ると、やはり至らないところも多々出てくるのではないかと、自省と自戒の毎日です。

そのような中で、一定の評価をいただき、職員一同、大変元気も自信もできましたし、何よりも「子どもたちのために、もっともっとがんばるぞ。」「こんなこともしてあげられるのではないか。」等と意欲を一層かきたられた次第です。教育の世界において、「承認」「称賛」することの意義や影響を逆に教えていただいた気がしました。

ところで、何よりも嬉しいのは、項目1の「喜んで登園していますか」において、大多数の子どもたちが嬉々として登園してくれていることです。まずは、『蒲生てんてんこども園に行くことが楽しい』がないことには何事も始まらない気がしますので実にありがたい限りです。

同時に、少数ながら「あまり楽しくない」と感じている子どもたちがいることも事実ですので、全員が笑顔と期待をもって通園してくれるよう、一層の工夫と努力を傾けたいと決意を新たにしております。

また、自由記述におきまして、様々なご意見・ご提言等をいただきましたので、可能な限り検討し、対応してまいります。

今後、機会を捉えながら、ふれさせていただきたいと考えております。調査へのご協力に心から感謝申し上げます。